

ゆるい しゅうかつしんぶん 終活新聞

緊急医療情報キット (愛称:安心キット)ご存じですか？

「救急医療情報キット」(愛称:安心キット)とは、高齢者や障がい者などの安全・安心を確保することを目的に、119番通報する事態が起こった場合に備えるキットです。自分の情報や緊急連絡先などを記入した用紙、健康保険証などのコピー、写真を円筒形のプラスチック容器の中に入れ、冷蔵庫に保管し緊急時に活用します。各自治体により導入はバラバラですが、もしもの備えとしての効果を感じます。急に自宅でも倒れても、救急隊・医療機関が迅速に救急救命活動を行えることができますし、本人はもちろん、判断を迫られるご家族もきっと助かるでしょう。

各自治体によりキットの内容は少し変わってきますが、基本的に個人の情報や緊急連絡先、既往歴、かかりつけ医療機関などの医療情報、「診察券」「健康保険証」「お薬手帳」などのコピー、顔写真(本人確認できるもの)など保管します。定期的に見直し、常に最新の情報を入れておき、万一の時に備えておくようにしましょう。

「救急医療情報キット」(愛称:安心キット)を備えることで、もしものに備える安心感に繋がり、終活の一步となるエンディングノートをちゃんと書こうと思うきっかけになると期待します。一度、お住まいの自治体の情報を確認してみてください。緊急時の様々な負担が少なくなることを願います。

【安心キットの流れ】

1. 救急医療情報キット、ステッカーを受け取る
2. 記入用紙に必要な事項を書き、写しや写真などをキットに入れる
3. 救急医療情報キットを冷蔵庫に保管
4. ステッカーを「玄関ドアの内側」「冷蔵庫の扉」に貼り付ける

- ★救急医療情報キット内の情報は、常に最新の情報を入れ、万一の時に備えましょう。
- ★一人暮らしの高齢者の玄関ドア貼り付けは、防犯や犯罪対策として注意が必要です。



例)高松市の安心キット「たかまつ安心キット」 HPより引用

□ あなたのお薬手帳はどこにありますか？誰か把握できていますか？

「救急医療情報キット」(愛称:安心キット)の配布は、自治体が高齢者や障がい者などを対象に行っておりますが、終活やもしもの備えを考えると、老若男女問わず大事なことではないかと考えます。これを持ち運びしやすいかたちで常に持っておくと、ミニエンディングノートのような役割を果たしそうです。身内の入院が続いた時、既往歴やお薬手帳をその都度確認されることの負担を感じました。逆に医療関係者からすると、本人すらあやふやな情報をなんとか聞き出し、処置にあたる負担は想像以上でしょう。元気なうちから整えておく、ほんのちょっと「もしもの」対応をしておくだけで、緊急時に自分も周りの負担もきっと少なくなると思います♪



「終活ノオト」
公式LINE